

週刊センターニュース No.89



第89号(2005年12月12日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会のご案内

第101回共同学習会は、急遽企画しましたので、12月22日(木)開催の第100回共同学習会に先立って行ないませんが、第101回とさせていただきます。

第101回 日時 12月19日(月) 16:20~17:50

場所 金沢大学角間キャンパス総合教育棟2階CALL実習室

発表者 西嶋 愉一(外国語教育研究センター)

テーマ「Podcastを活用した教材配信」

趣旨: iPodに代表される携帯音楽プレーヤーの普及に伴い、Podcast(ポッドキャスト)が注目を集めています。Podcastは、音楽やラジオ番組などを「購読」という形で自分の手許にダウンロードし、好きなときに好きな場所で聴ける仕組みです。これを音声教材の配布に使うと、大量のカセットテープやCDをダビングする手間を省き、音声データをサーバに置いておけば、学習者がダウンロードして聴くことができます。本研究会では、Podcastの概要、外国語学習向けのコンテンツ、そして、外国語教育研究センターで試験運用中のPodcastサーバを使って、実際に教材を配信する一連の流れをご紹介します。

共同学習会が第100回を迎えます。

第100回 日時 12月22日(木) 16:20~17:50

場所 金沢大学角間キャンパス総合教育棟南棟2階大会議室

発表者 田中一郎(共通教育機構長)

テーマ「特色GPの傾向と対策 - 審査員の立場から -」

概要 平成17年度文部科学省特色GP第2審査部会委員を務められた経験から、本学における教育改革をどのように進めていくべきか、提言をしていただく。各部署のFD、教務担当教員を中心に、積極的な参加を期待したい。

「熊本大学におけるキャリア支援」の紹介

12月1日に、熊本大学において同大学大学教育機能開発総合研究センター企画による21世紀型大学教育セミナー・シリーズ第1回「学生視点での21世紀型大学教育への試み」が開催された。私はここで「学問主体としての学生を支援する大学教育へ」と題する報告をする機会を与えていただいたが、その内容は、近日中に本センターのHP上に掲載する予定である。今回は、私に引き続く報告、日和田伸一氏(同大学学務部キャリア支援課長)による「熊本大学におけるキャリア支援」が、本学における教育改革においても参考となる内容であると思われるため、以下に報告する。

セミナーは「大学における教育には、知識の伝達のほか、学生の課題探求能力や自主的な問題把握とその解決能力の育成があり、このことは大学における研究の進展や社会に対する大学教育の役割としてきわめて重要」との趣旨で企画され、この報告は「学生の能力開発にキャリア支援の面から関わっている」点に着目されたものであった。

日和田氏は、着任後半年の経験について、学生参加型のキャリア支援を交えて話された。リクルートの広告事業部、熊本支社長を経て、公募によって採用された方で、リクルール在職中は、会社を強くする方法としての人材総合サービス事業という信念で仕事をしてこられたとのことであった。以下は報告の要旨である。

「就職活動をしている学生にはとくに、なんのために働くのかという意識を持つことが大事と伝えている。個性主義、顧客の絞込み、競争(ユーザーを取れ)他でやってないからやる、というのが成長企業のキーワードである。例えば、トヨタ「プリウス」の開発成功は、出身大学名を問わずに採用するという画期的な人材採用に起因していると言われてるように、他の企業ができないことをするために人は大きく影響する。」

かつては、企業に入ればキャリアはその組織が提示してくれたが、今、多くの企業は生涯にわたる雇用は保障できない、だから自分のキャリアは自分でという時代である。自分にとって最適なキャリアをイメージし、それを実現する手段として働く場としての進路を選択することが大切にある。自分がどんな仕事でスペシャリストになるのかを考えるために、企業研究をする。具体的には、どんな商

品サービスか、どんなお客様か、どこがライバルか、働く人は何を喜びに働いているかを調べる必要がある。

「リクナビ」の登録学生のなかで、希望の仕事としては学生の約4割が、商品企画、プランニングを希望するが、営業へのネガティブイメージが強いからだ。だが、営業は仕事の原点である、相手の課題を聞き出して接点を作って自分の言葉で語ることが必要である。

3年の10月までに入学後2年半しかない。そこで在学生の力の活用である。熊本大学では、就職が内定した学生がサークルも巻き込んで、後輩に対して、就職活動前の意識啓発活動などをイベントの形で行っている。

キャリア支援課の目指すものは、就職活動だけでなく、社会に出ても生かされるものを学生に身に付けてもらうことである。職員支援課のお客さんは誰なのか、学生である。学生と学生の背景にある社会についての情報感度を上げることが大事である。>

就職支援に賭ける情熱を感じることができる報告であった。日和田氏は100倍を超える倍率の中から採用されたということであるが、実務家教員の採用と同様、このような形で直接的に民間の発想を採り入れることは、教育改革のために大きなインパクトを持つ取り組みの一つであると実感した次第である。(文責：教育支援システム研究部門 青野 透)

「平成17年度学生ボランティア活動支援・促進のための連絡協議の集い」参加報告

12月8日に東京国際交流館で、標記の集い(主催：独立行政法人日本学生支援機構、後援：文部科学省)が開催された。趣旨は<大学等において、学生が行うボランティア活動等を積極的に奨励するため、正規的教育活動として、学内外における社会体験・地域活動を視野に入れた取り組みが社会的にも注目されています。中央教育審議会答申の中でも、大学等における奉仕活動等の奨励・支援についても重要視されており、地域等において大学生のもつ潜在的な力に対する期待感日は増しに高まっています。また、さまざまな場において、大学等とボランティア関係団体との情報交換や緊密な連携・協力が強く望まれています。このような状況を踏まえ、大学と関係機関・団体の担当者間の連携・協力をさらに推進するために、それぞれの具体的な取り組み事例や課題等についての情報や意見交換を行います>というものである。私は学生部経費による参加の機会を得たので、山本昌博氏(文部科学省生涯学習政策局社会教育課ボランティア活動推進専門官)による講演「ボランティア活動の推進による地域教育力の再生」と、シンポジウムについて簡単に報告する。

講演では、2000年の教育改革国民会議の提言を受け、学校教育法で小学校において体験活動の例示として特にボランティア活動の充実が明記され、社会教育法で市町村教育委員会の事務として、ボランティア活動の機会の提供、奨励が明記されたことの指摘があった。これを受けて、例えば、安全な街づくりについてのいわゆる防犯ボランティア団体のなかに、東北大学の学生も含んでの防犯パトロールや、島根大学の学生が公民館と協力してパトロールする例などがあることが紹介された。また、東北福祉大学のボランティアセンターでは活動幹旋するとともに、年間1単位を上限にして大学が単位認定を行っている例も紹介された。ボランティア活動支援は、大学内で完結するわけではないので、ひろく行政機関やNPO等との協力を必要とすることも強調された。内閣府の調査では国民の約6割が何らかの形でのボランティア参加希望があるとされるので、ボランティアを活用するという発想はよくないかもしれないが大学の社会貢献として位置づければ良いのではとの指摘があった。なお、私立大はよくやっているが国立大は積極的でない、流れに任せているとの評も述べられた。

シンポジウムは「大学になぜボランティアセンター機能が必要なのか」というテーマで、総合司会興相寛氏(社会福祉法人世田谷ボランティア協会理事長)、シンポジスト田中芳則氏(広島大学障害学生支援のためのボランティア活動室助教授)、山本和氏(国際基督教大学総務理事)和栗百恵氏(中央大学総合政策学部特任講師)によって行われた。日本ではボランティア窓口を設置している大学が8割を超えているが、大学の中に明確に位置づけて支援している仕組みがあるかという点で、大学にそうした機能や環境をつくる必要があり、それがなければボランティアをしたいと考える学生の支援に困難があるという認識のもとで開催されたシンポジウムであった。ボランティアをすることで学生は元気になる、変わるということが成果として強調された、いずれも優れた取り組みの紹介であった。詳しい資料は、当センターで保管しているのでお問い合わせいただきたい。

(文責：教育支援システム研究部門 青野 透)

平成18年度版『きいつけまっし』改訂作業へのご協力をお願い

現在、毎年新入生に配布している『きいつけまっし』の改訂作業に入っています。参考にさせていただくため、広く教職員、在学生の意見を求めています。「新入生には特にこんなことに注意を喚起すべきだ」「こんな情報があると助かるだろう」などいったご意見をaono@sgkit.ge.kanazawa-u.ac.jpまでお寄せください。(文責：教育支援システム研究部門 青野 透)